## 施策評価シート

施策等名称	発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)	体系番号	0301010202
ル東守石が	の推進	主管課	美サイクルセンター

1	施第	<b>基本情報</b>			<b>プッサルミル 人</b> 宮	亚4.4.6.眼间亚4	. L.I. & 1. J. & 11. – & 1	中央アプル	古米ブーュル	.,_ 1
			層の発生抑制	人一ロヨだり 制・排出抑制・	ごみ排出量は、全国 ・資源化等を進める必	子母や女母条子母が要がある。	はツ多い仏ボにのと	)、家庭ポこの、	子未ポーの犬	::-
	現状	<b>犬と課題</b>								
				- 株外山人東京	湖、蓼科高原などに	ひまさん スパッティ	藤林大の見知ナル	(d) shill b	<b>山はの名祭</b> め	か白蜂
	るべき	す将来像 き姿、基本的 きえ方)	環境特性を存	1年前で多符	M、多谷画原なとに ☆から、本計画では循	で表されるバゲ岳山 環型社会の形成に 1	により本地域の自然 により本地域の自然	環境との調和を	思想の象徴的目指す。	4日祭
			上 指標名称		4	指標の説明(単位)		計画策定時	2022年度目	
施	1	リサイクル率			資源物量/年間ごる			13.30	2027年度目 30.00 ごみ処理基	
策指標	2								この処理器	<b>平計</b> 画
標										
	3	名無理刑	<b>キ</b> ナ づくいのも	# <b>\</b> #			<b>→ #</b> ##	***	Charles and	
		孙	まちづくりの拍	<b>EÆ</b>			主管課	<b>美</b> ザ1	'クルセンター	
		詳細リサイク	<b>7ル・リユース</b>	を推進するた	め、茅野環境館の利	用促進、資源物分	別の啓発及び適正	な収集に取り組	む。	
		まちづくりの	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する	主要事務事業	区分
	施策						11000.00	1 茅野環境館	女照理性检查理逻学車	
	の柱	1 茅野環境館来館者数 年間来館者		数(人) 10915.00		11100.00	2 資源物収集処理事業		実施	
	1	<b>資源物量</b> ✓			年間ごみ量×100	13.30	30.00	3 環境美化推進事業		実施
		2 リサイクル率 (%)		(%)	<b>しかり</b>		ごみ処理基本計 画改定時に設定	4		
		3						5		
		基本政策間連	- 146					6		
		名称	105				主管課			
		詳								
施		細								
策		まちづくりの	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する	主要事務事業	区分
の体系	施策の	1						1		
	の 柱 2							2		
	2	2						3		
								4		
		3						5		
		基本政策間連	携					6		
		<b>本</b>					主管課			
		詳   細								
	施	まちづくりの	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する	主要事務事業	区分
	策の	1						2		
	柱 3	2						3		
								4		
		3						5 6		
		基本政策間連	携	I .		1				

施策等名称	発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)の推進	体系番号	0301010202
旭果守石怀	光生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)の推進	主管課	美サイクルセンター

2 指標等の推移と変動要因

	本系区分	/ 住存と変 期 安 囚	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度				
指標No.		成果指標名	中間目標値		実績値 / 達成率(実績値÷目標値)								
	施策	リサイクル率	13.30	13.70	12.50	12.90	12.60	12.50	12.80				
	1	<b>ラッキッル</b> 年	30.00	45.67	41.67	43.00	42.00	41.67	42.67				
	2018年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	可燃ごみの総排出	量が減少した	ため。								
-	2019年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	資源物の総排出	が減少したた	<b>ట</b> .								
変動	2020年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し資源物の総排出量が減少したため。											
要因等	2021年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	ている。										
7	2022年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	源化総量は前年度とほぼ同水準を維持している。										
	2023年度	<b>診排出量が減少</b> したため、リサイクル率が上昇した。											
	柱1	** HE 750 Lab &44 At &44 At &44	10915.00	9625.00	9195.00	8727.00	9467.00	9866.00	9205.00				
	1	茅野環境館来館者数	11000.00	87.50	83.59	79.34	86.06	89.69	83.68				
	2018年度	リサイクルショップ等の民間の事業者が増えていることが要因として考えられる。											
_	2019年度	リサイクルショップ等の民間の事業者が増えていることが要因として考えられる。											
変動	2020年度	4月休館としたため。											
要因等	2021年度	新型コロナウィルス感染症の影響による休館日数が減少したため来館者数が増加した。											
**	2022年度	新型コロナウィルス感染症の行動制限が緩和されたことなどにより、コロナ禍前の状況に戻りつつある。											
	2023年度	茅野環境館の閉館に向けて、事前の周知や売場を縮小したことから来館者数が減少した。											
	柱1	リサイクル率	13.30	13.70	12.50	12.90	12.60	12.50	12.80				
	2	リザイグル半	30.00	45.67	41.67	43.00	42.00	41.67	42.67				
	2018年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	可燃ごみの総排出	量が減少した	ため。								
z/c	2019年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	資源物の総排出	が減少したた	<b>ట</b> .								
変動要	2020年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	資源物の総排出	が減少したた	<b>ట</b> .								
安 因 等	2021年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	ている。										
77	2022年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し	ている。			-			-				
	2023年度	総排出量が減少したため、リサイクル率が上昇した。											

施策等名称 発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)の推進 体系番号 0301010202 美サイクルセンター

3 評価・改革改善(単位:円)

3 ;	評価・改	译改善											(単位:	円)
	項	目	2018年(前年	<b>F度比)</b>	2019年(前年	<b>丰度</b> 比)	2020年(前年	F度比)	2021年(前年	F度比)	2022年(前年	年度比)	2018年~2023年	年(総括)
	投資額	事業費(円)	126,188,047		119,742,522	0.95	122,376,779	1.02	114,263,642	0.93	74,033,062	0.65	71,868,861	0.97
	(2018年 ~2023 年(記 新) (2023年 (記 2023年 (表 で 記 を 記 の で 記 の に は に は に は に は り に り に り に り た り た り た り た り た り た り た	ラち一財(円) 増減理由 (一般財産 土10%以 上の場合 に記載)	112,547,105		107,332,568	0.95	108,859,135	1.01	104,606,748	0.96	74,021,197 諏訪南リサイク ターの稼働に付 物中間処理が組む したため。	い、不燃 oていた	71,855,571	0.97
		評価	おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		遅れている		やや遅れている		遅れている	
評価	***	主な取組内容や成果	可燃物・資源物 化し、適切にの は民への 市民活動付団に した取り組みを などを継続して る。また、環境負	を減量 理するたい 場合での音での音を進めた	可燃物•資源物	を減量 理対るたい はとうこで 行っての 首での 作進の を推進	排出される可燃 減量するため、対 推奨し適切に処 ための周知に処 ル茅野と連携し みを継続して行 る。	ご資理する み化る 理ササリリン は3Rの は3Rのし	排出量が出るため、 排減型の周短性に が表すり、 が表すり、 が表すり、 はないののでは、 はないのではないのでは、 はないのでは、 はないのでは、 はないのでは、 はないのでは、 はないのでは、 はないのでは、 はないのではないのではないのではないのではないのではないのではないのではないので	ごみをを 連ずる。 選サイク組 たてい は3Rの は3Rのし	(R4評価)排出する 機ごからを推奨し 処でを性がのできます。 処でをたけりいのでは、 ができますが、 のでは、 ができますが、 のでは、 ができますが、 のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	されるのでは、 ・ では、 ・ では、 、 では、	資源化の推進を クルを行っている。 のリカイクルを行っている。 のリカイクルが増り 概なに、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、	美サ大郎 携し民からした。 大学に大学した。 はいまた。 はいまた。
	合評価	課題	排出されるごみ 減少傾向にあり クル車も上昇し しかし、市民の3 する意識を向上 り組みは、継続 ことが必要であ	し、リサイ ている。 環境に対 させる取 して行う	排出されるごみ 減少傾向にあり クル率も上昇し しかし、市民の3 する意識を向上 り組みは、継続 ことが必要であ	l、リサイ ている。 環境に対 させる取 して行う	排出されるごみ 減少傾向にあり クル車も上昇し しかし、市民の する意識を向上 り組みは、継続 ことが必要である	、リサイ ている。 環境に対 させる取 して行う	排出されるごみ 減少傾向にある クル率の変化は ない。引き続き 境に対する意識 させて行うことが必 る。	。リサイ :見られ †民の環 を向上 は、継続	て行っている。 (R4評価は対け、 おか、リイは、 のの量はイナルに なが、リイは、 で変続き意識を維でしたが、 はが、 はが、 はが、 はが、 はが、 はが、 はが、 はが、 はが、 は	着加した 率にい。引 地にない。 関境にさ行 いた さう ルた いた の が に さ の の の の の の の の の の の の の の の の の の	リサイクル率がいない。地域柄ごみが多いが、への啓発が十分でいない。	事業系 事業者
数		革・ ∶内容	ごみの出し方での分別である。 手段にPRする。 美にPRする。 美である。 美でもある。 美でもある。 大である。 美で、ご回収袋を付入り減量に を付入する。 を行う。	、様々ないが必要 と協働の はり起 で成・配	手段や方法を用民にPRすることである。 美サイクル茅野	、様々な いが必要 と協働と りと協働 は りが必要	ごみの出し方での分別では、 の分別や方はを民にPRする。 美にPRする。 美サイクル減事に、 業・サイクル減事に、 雑紙回収等を根 布する動を維続する 発活動を維続する	、様でが、協組配をなる。 はいかい 協組配 動み	ごみの出し方やでの分別について手段や方法を用民にPRする。 である。 ごみの出し方のの作成配布等にのPR活動を実行	、様々ないて市 が必要 てびき この減量	美サイクル茅野 で、ごみ減量に たな取組を検診 事業者向けのルト等を作成し、 みの分別、資源 す。	向けた新 する。 ペンフレッ 事業系ご	て、ごみ減量化 に向けた新たな	、資源化 取 フス系化 ・数有料
0. 革・改善	施策の柱等の	点化する (策の柱 重点 高事事業 理由		市民活 毎年開催 でのPR	1 現境に対する市の向上のため、動を活発にし、にいる環境展等の活動が重要る。	市民活 毎年開催 でのPR	1 環境に対する市の向上のため、動を活発にし、ましている環境展等の活動が重要る。	市民活 毎年開催 でのPR	1 1 環境に対する市 の向上のため、 動を活発にし、F 活動が重要であ	市民活 PR等の	1 環境に対する市の向上のため、動を活発にし、活動が重要であ	市民活 PR等の	1 1 環境に対する市の向上のため、動を活発にし、F 活動が重要であ	市民活 PR等の
	作成担:	当者	守屋 正	弘	武居 直	樹	金井 和	<u> </u>	伊藤研		伊藤 研	<u> </u>	小平 光	
	1 F /火 ] 二 :		, <u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>		<i>₽</i> √/□   <b>E</b>	· park)	- AL 71 114	• •	<i>17110</i> 191		D-DK W	•	40.1 70	• [

作成担当者	守屋 正弘	武居 直樹	金井 和人	伊藤 研一	伊藤 研一	小平 光洋
最終評価責任者	堀内 俊彦	岩島 善俊	岩島 善俊	小平 雅文	小平 雅文	平沢 幸人
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月17日	2021年5月28日	2022年5月30日	2013年10月24日	2024年7月4日